



福井 繁樹 会員

みなさん、こんにちは。福井繁樹でございます。4月7日から入会させて頂き、まだまだ緊張の日々が続いておりますが、皆様には温かく迎えて頂き、また優しく接して頂き、大変感謝しております。改めてお礼申し上げます。

本日は新入会員スピーチということで、自己紹介をさせていただきます。特に波乱万丈なエピソードはございませんが、少しでも皆様にご覧いただけますよう、フリップを作成してきました。フリップをめくりながら、当時の出来事も織り交ぜてお話をさせていただきますので、お付き合いの程、宜しくお願い致します。

私は、昭和49年（1974年）に「相生市双葉」というところで、長男として生まれました。干支は寅年でございます。昭和49年生まれの有名人には「松井秀樹さん（野球）」「国分太一さん（TKO）」「室伏広治さん（ハンマー投げ）」がいらっしゃいます。生まれた年の出来事を検索しますと、「長島茂男さんの現役引退」「セブンイレブンが東京都江東区に1号店を出店」という出来事が出てきます。今は身近にあるセブンイレブンが、生まれた年に1号店を出店したということを知り、47年間でどれぐらいの店舗数になったのか調べてみますと、現在の日本国内の店舗数は、21,301店舗という数字が出てきました。そんな47年を振り返りながら自己紹介をさせていただきます。

まずは、私が生まれ育った相生市についてお話をさせていただきます。生まれ育った相生市の人口は、生まれた昭和49年が市内の主要産業の発展もあり、最多人口の42,188人で、子供のころは石川島播磨重工業へ通勤される自転車に乗った方が多く行き来していた記憶があります。現在は28,237人（令和4年3月現在）と生まれた時から、13,951人の減少となっております。大きな祭りとしては、「相生ペーロン祭」があります。「相生ペーロン祭」は大正11年（1922年）に長崎県出身の播磨造船所従業員に伝えられ、終戦までは毎年5月27日の海軍記念日に天白神社の例祭として、ボートレースとともに行われていました。この異国情緒あふれるペーロン競漕を絶やすことなく続けたいと、戦後、市・商工会議所・播磨造船所の共催による「相生港祭り」として開催し、また前夜祭として花火大会も行われるようになり、現在の祭りの基礎が出来たと記載されています。現在は、毎年5月の最終の土曜日・日曜日に相生湾で開催されております。土曜日は前夜祭として約5,000発の花火が打ち上げられる「海上花火大会」が開催され、翌日の日曜日には「ペーロン競漕や陸上パレード」が行われます。ペーロン船は、長さ13m、幅1.58mに漕手28名を含め合計32名が乗ります。中学校の時に漕手として大会に参加し、優勝した記憶があります。ただ、ここ2年間はコロナの影響で開催中止となっておりますが、今年2022年は、相生市にペーロン祭が伝来し100周年という記念すべきメモリアルイヤーとなります。

次に家族構成についてお話をさせていただきます。生まれた時の家族構成は、祖父・祖母・父・母・姉の6人家族でした。父親は石川島播磨重工業勤務で出張も多く、母はパート勤務で、祖父・祖母によく面倒を見てもらっていました。今も生まれ育った場所で、父・母と同居し、妻と長男・次男・三男の7人で暮らしております。妻は相生市でパート勤務、長男は高校2年生、次男は中学校3年生、三男は小学校5年生で、生まれ育った家庭環境とあまり変わらず、夏休みなどの長期の休みには、父・母に子供の面倒を見てもらっています。

次に小学校時代についてお話をさせていただきます。小学校は「双葉小学校」で家からは100m程度の位置にありました。現在は小学校も場所が変わり、双葉小学校があった場所は「相生市立温水プール」となっております。小学校のころは、海が近いこともあり、よく自転車で友達と魚釣り

に行き、夜は祖父とほぼ毎日将棋を指したりして過ごしていました。また、「少林寺拳法」と「習字」を習っていましたが、当時は遊びたいという気持ちが勝っており、中学生になった時に止めました。今思えば、小さい時から一つのことをやり続けている事がなく、少林寺拳法だけでも続けていれば良かったと後悔しております。

その後、小学校の隣にある、「双葉中学校」に入学しました。双葉中学校では、当時は男子生徒は全員丸刈りと言う規則があり、散髪は祖父にバリカンで刈ってもらっていたことを思い出します。部活動は自宅の庭に卓球台があったこともあり、卓球部に入部致しました。自分なりに練習も頑張ったつもりでしたが、市内大会で勝てる程度でそれ以上は賞を取れるレベルに達することは出来ませんでした。周りに乗せられた経緯もありましたが、部長をしたことは良い経験になったと思います。

高校は、地元の「相生高等学校」に入学しました。相生高等学校は、生まれた年の3年後の1977年に開校しており、14回生でした。高校卒業後、愛知県にある「中京大学経済学部」に入学致しました。

大学は、名古屋市天白区というところにあり、名古屋で一人暮らしをしていました。大学時代も、勉強はそっこのけでアルバイトばかりをしていました。「薩摩ラーメン」という鹿児島県出身のオーナーと奥さんが経営していた、豚骨ラーメン店のアルバイトを中心に、夜間は「ペリカン便の荷物の仕分け」、休日は、定期的に募集している「交通量調査スタッフ」や「クリーン（清掃）スタッフ」、休みで実家に帰った時は、親戚が経営する「電気工場の現場の手伝い」等、色々なアルバイトをしました。ラーメン店のオーナーと奥さんには、一人暮らしをしていた私に対し、家族のようにいつも優しく接して頂いたことを今でも思い出します。しかしながら、過労が原因かは不明ですが、一週間以上も高熱が続き、体調を崩してしまい、掛け持ちしていたアルバイトを、ラーメン店1本に絞り込みました。アルバイトで貯めたお金で、中型自動二輪の免許を取得し、バイクを購入、友人とツーリングに行ったり、楽しい大学生活を過ごしました。そんな大学生活を過ごしていましたが、大学時代に今でも鮮明に覚えていることがあります。それは「阪神・淡路大震災」です。年齢は20歳で成人式の年でしたが、実家には帰らず、震災の前日も深夜2時までラーメン店でアルバイトをしていて、その日は何故か眠りにもつせず、朝方まで起きていました。1月17日、午前5時46分に大きな揺れが起きました。住んでいた場所は震度3と発表されましたが、住んでいた場所が5階ということもあり、それ以上の揺れを感じました。テレビを付けて被害の状況を知り、心配になってすぐに実家に電話を掛けましたが、電話が混線して繋がらなかったことは今でも鮮明に覚えております。大学3年生になり、就職活動について考えるようになり、一応長男ということもあって、地元の信用金庫を中心に就職活動を行いました。家に定期積金の集金に来ていたのが姫路信用金庫であり、なじみもあったせいか、内定を頂いてすぐに入庫を決めました。

姫路信用金庫には平成9年（1997年）に入庫致しました。入庫した年の出来事を検索しますと、「消費税率を5%に引き上げ」「大阪ドーム・名古屋ドーム完成」「トヨタ自動車の世界最初のハイブリッド車プリウスを発売」という出来事が出てきます。

現在入庫して25年目になりますが、店舗経験数は、龍野支店で10店舗目になります。その内、広畑支店2回、西支店2回と半分近くはこの2店舗で営業をしていました。

新人の時には何も出来ないことばかりで、自分に出来ることをとにかく頑張ろうと思い、店内・店周の清掃を一生懸命した記憶があります。毎日の学んだことや出来事を記入し、指導員・上司からコメントを頂く「フレッシュマン研修ノート」と言うものがあり、この度読み返してみましたが、やはり「今日は天気もよく店周の掃除を頑張りました」とコメントを書いていました。しかしながら、当時の上司にその姿勢が認められたからなのかは不明ですが、1年も経たない間に外回りをするかと言われました。

初めに与えられたのは「自転車」です。当初の仕事は、飲食店へ両替を持参する業務が中心で

した。毎日決まった時間に両替を持参しておりましたが、お客様からは「いつも有難う。これでも食べて行き」と温かい言葉を掛けて頂いたことがとてもうれしかったことを今でも覚えております。ただ、自転車のかごが壊れるほどの両替を毎日運んで、かなりのカロリーを消費していたと思いますが、両替を持参する先々で、出して頂いたお菓子を完食していたせいか、体重は増加し、上司からは「自転車で回っているのに肥えたな」と、言われた記憶があります。

ちなみに、棒金1本(50枚)の重さは、約ですが1円が50g・5円が190g・10円が225g・50円が200g・100円が240g・500円が350gです。当時は、あらゆる棒金をカバンに何十本と入れて運んでいましたので、営業カバンは両替の硬貨だけで5kg以上はあったと思います。ちなみに、2000年7月に発行された2,000円札への新札両替も、当時はよく依頼を受けたことを覚えています。

次に与えられたのは「スーパーカブ」です。一気に行動範囲が広がりました。ただ当時は携帯電話も持っておらず、お客様から店に連絡があればポケットベルが鳴る時代でした。この時、一番に取組したことは、公衆電話の設置してある場所の把握です。基本、一度店を出れば昼に一度だけ帰店するだけなので、今思えばその時に「仕事は段取り8割」ということを覚えた気がします。

支店長として初めて着任したのは、明石市魚住町にある「土山支店」と、加古郡播磨町にある「本荘支店」の2店舗を兼任する2店舗経営の店舗です。土山支店は平成21年11月開設と一番歴史の浅い店舗で、着任時は開設7年目の年で、4番目の支店長として着任しました。エリア内には播磨町・稲美町がありますが、播磨町・稲美町ともに人口は3万人を超える町であり、相生市より多い人口数となっております。今まで配属となった店舗の中では、通勤距離が片道45kmと最も遠く、土地感は当然なく、着任当初は1日でも早く土地感を身に付けるために、休日の度にエリア内をうろろした記憶があります。今振り返れば、2店舗経営で、目が行き届かないことも多くあったと思いますが、部下にも恵まれ、大きな問題もなく次へバトンを渡すことが出来たと思います。

次に平成3年12月開設の「太子支店」に、11番目の支店長として着任しました。太子支店には2年8ヶ月勤務し、この度、龍野支店に着任しました。龍野支店は昭和23年7月開設と、私が生まれる以前に開設された歴史のある店舗で、支店長としては26番目となります。

最近思い出す言葉があります。「千里の道も一歩から」と言う言葉です。小学校1年生の時に、担任をして頂いていた先生から、その言葉とあじさいの絵が書かれた色紙を頂きました。頂いたときは、千里がどれぐらいの距離かは当然分からず、気にもとめていませんでした。しかしながら、色々な人に助けて頂きながらではありますが、「一歩ずつ歩いてこれたから今があるのだなあ」と今になってその言葉を思い出します。

また先月、土山支店のお客様からお電話を頂きました。土山支店で勤務していた時のお話ですが、当金庫へ入庫を希望する方が、インターンで土山支店に来たときに、そのお客様のところに同行訪問させて頂いたことがありました。電話の内容は「先日、転勤の引継で新しい担当者が挨拶に来たよ。新しい担当者は入庫してがんばりよと激励を送った方でした。人の縁は不思議なものですね。」との内容でした。我々は長くて3年で転勤となりますが、信用金庫職員の転勤は転居を伴うものではなく、転勤後も「ご縁は続く」ありがたい職場だと思います。

この度、龍野支店に転勤になったことで、皆様とお会いすることが出来ましたし、ロータリーへの入会もさせて頂きました。

今回、自己紹介をさせて頂くにあたり、色々振り返ってみました。冒頭でも申し上げました通り、特にこれといったエピソードもなく、平々凡々と、日々を過ごしてきたと痛感しております。まだまだ緊張した日々が続いておりますが、皆様には色々なことを教えて頂きながら、ロータリーでの活動を通じて多くのことを学び、何事にも積極的にチャレンジしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

とめどものないお話となりましたが、本日はご清聴頂き、本当にありがとうございました。